

## 全国大学生マーケティング・コンテスト参加報告

第 16 期生 北澤 涼平

### ◆全国大学生マーケティング・コンテストとは…？

全国大学生マーケティング・コンテスト（以下、マケコン）とは、神戸市外国語大学が主催するビジネスコンテストです。この大会は、外国語大学が主催しているという特性上、英語でプランの発表と質疑応答を行うという特徴を有しています。小野ゼミは記念すべき第 1 回から参加しており、とりわけ第 2 回と第 5 回では準優勝、第 3 回と第 4 回では優勝を飾っています。第 8 回である今年度は、小野ゼミ第 15 期と第 16 期から“Team GHS”（合場さん、著者、土谷、平間）が参加し、協賛企業でもあるフィデリティ投信株式会社が、どうすれば若年層に対して、馴染みのない投資信託商品である TDF を普及できるのかという課題に取り組み、結果として、本選会出場という成果を収めました。



“Team GHS”

（左から、平間、土谷、著者、合場さん）

### ◆発表の概要

僕たち“Team GHS”は、大勢の人が支持しているものを、自分も支持したくなるという現象、所謂「バンドワゴン効果」を用いたマーケティング戦略を策定しました。具体的には、投資に興味のない新入社員が、周りの先輩社員が TDF を利用しているという状況に感化されて TDF の利用を開始する、つまり「バンドワゴン効果」を発生させるために、企業が TDF を社員に推奨するというプランを提案しました。

今回のテーマは僕たちにとっても、馴染みのないものであり、プラン策定は困難を極めました。僕たちの実感を裏付けるように、毎年開催される関東予選は、出場チームが少ないという理由で開催されず、“Team GHS”は、無条件で決勝大会に選出されました。

決勝大会では、例年より少し多い 10 チームが、神戸外国語大学に一堂に会し、大勢の観客と審査員の前で発表を行いました。



発表前日に著者の部屋で、発表練習に取り組む一同  
（左から、著者、土谷、平間）

また、当日は、小野先生にも僕たちの応援のために、わざわざ神戸までご足労いただきました。誠にありがとうございました。休日にも関わらずお越しいただき、本当に小野先生はゼミ生思いの先生であると感じました。小野先生の期待に応えるべく、僕たち自身が納得のいく発表をして優勝しようと勇んだものの、健闘むなしく、入賞するに至りませんでした。しかしながら、英語で発表を行うことの難しさを体感する、とても貴重な経験を得られました。

#### ◆発表後記

“Team GHS”が、マケコンに出場すると決定したのは、なんとプラン案提出締切当日でした。また、その日は奇しくもKSMS最終日と同日でした。韓国から帰国した僕は、帰路につく小野先生に同行して1人でマケコンのプラン案に関して直談判をさせていただきました。そして、小野先生の力をお借りして提出締切当日に、出場することを決定しました。また、メンバーとして出場決定の場に偶然居合わせた合場さんと鈴ちゃんを迎え入れました。そして、刻限の23:59が差し迫る中、品川のマックでプラン概要800字とプラン概要のスライド作成にメンバー3人で取り組みました。その後、決勝大会に無条件で出場した僕たち3人は、帰国子女である強力な助っ人遥絵ちゃんを迎えて決勝に臨みました。

しかしながら、上述のように、決勝大会において、入賞することは叶いませんでした。優勝したチームのプラン案は、そこまで画期的なものではありませんでした。しかし、発表や質疑応答の随所に自分たちのプランはすごいんだという自信が感じられました。ここが、僕たちの発表に欠けていた部分だと思います。関東予選がなく、三田論を終えたばかりの僕たちには、マケコンの準備は、まだしなくても大丈夫だろうという慢心がありました。この慢心が準備不足をうみ、この準備不足が、自信を欠く発表に繋がったと考えられます。

このように、反省の色が残る大会でしたが、『失敗は成功のもと』。この失敗から、僕はタイムマネジメントの重要性と難しさを学びました。また、他のメンバー3人も僕と同じように、何か失敗から学び取っていたら嬉しい限りです。忙しい時期に、“Team GHS”の4人で優勝を目指して共に頑張ったことを、僕は絶対に忘れません。自分1人だけがやりたいと志願したにも関わらず、協力してくれた他のメンバー3人には、心から感謝しています。3人がいなければこの記事を書くことすら叶わなかったでしょう。



会場となる神戸市外国語大学で撮影した4ショット  
(左から、著者、土谷、合場さん、平間)

最後になりますが、この大会に出場するにあたり、何度もご指導してくださり、僕の無謀な挑戦にご助力いただいた小野先生、そして発表の仕方や資料内容をご指導くださった大学院生さん、第15期生の先輩方、本当にありがとうございました。